

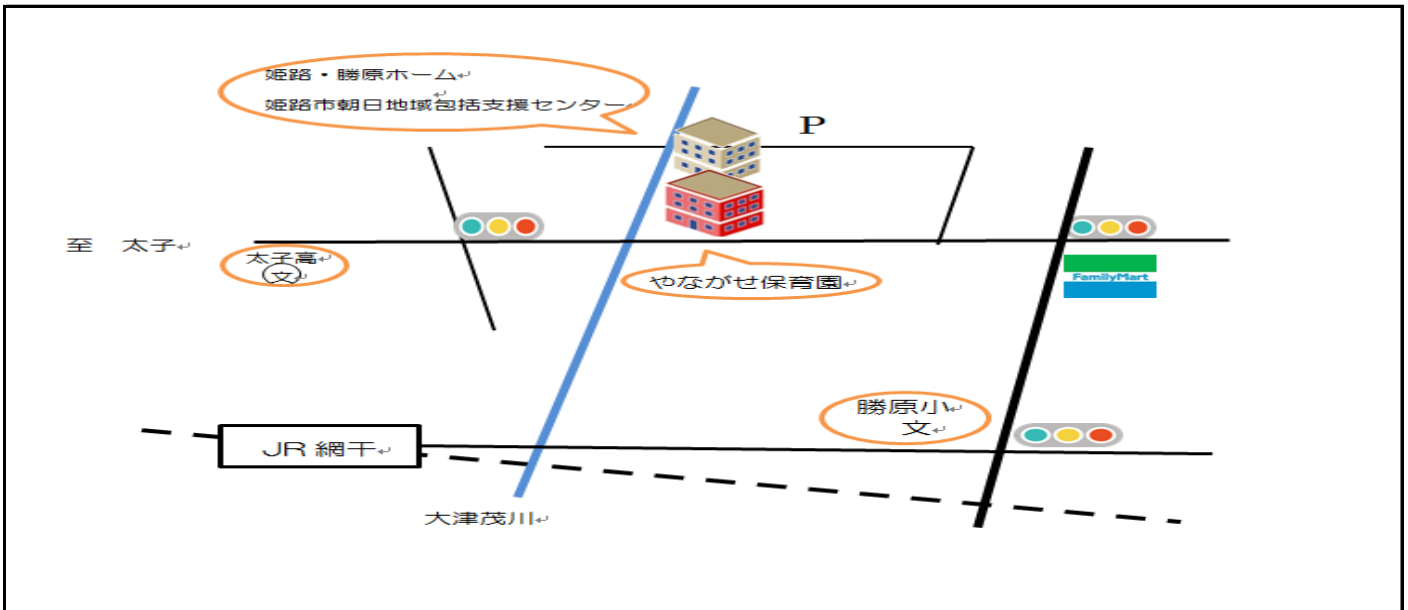
地域包括支援センター適正運営評価 基本調査票

【地域包括支援センター概要】

センター名称	姫路市朝日地域包括支援センター
法人名	社会福祉法人 やながせ福祉会
所在地	〒671-1201 姫路市勝原区下太田573
電話	079-273-1610
FAX	079-273-4321
ホームページURL	ホームページはなし

【センターの案内】

センターまでの交通手段	JR網干駅北口から徒歩約20分 [姫路駅南口-はりま勝原駅-下太田] [神姫バス] 下太田車庫下車 徒歩5分 [姫路駅南口-姫路南高校-JR網干駅] [神姫バス] 下太田車庫下車 徒歩5分
-------------	--



【センターが所在する地域の特徴・特性】

担当圏域(勝原校区、余部校区、旭陽校区)は姫路市の南西部に位置し、たつの市、太子町に隣接しています。住宅街と田園地帯が混在するほか、東芝姫路工場とその関連会社が連なる工場地帯でもあります。近年は、校区内で相次いで宅地開発がおこなわれています。

また、毎年10月21日、22日には兵庫県の無形民俗文化財に指定されている「提灯祭り」とも呼ばれる魚吹八幡神社秋季例祭が行われる地域であり、国指定文化史跡である瓢塚古墳がある地域でもあります。圏域内高齢化率は27.6% 勝山町は44.4%と最も高く、相談件数も多いため地域活動を通しても注意を向けています。

現在、圏域内には高齢者の集いの場として、いきいき百歳体操開催会場が23カ所、認知症サロン開催会場が1カ所あります。

また、介護サービス事業所として、居宅介護支援事業所が5カ所 訪問系・通所系サービス事業所が17カ所、定期巡回1カ所 小規模多機能ホーム1カ所 福祉用具事業所1カ所 施設系では特別養護老人ホームが2カ所、介護付き有料老人ホーム1カ所、住宅型有料老人ホーム1カ所 グループホームが3カ所、サービス付き高齢者住宅等が5カ所あり、介護サービスが利用しやすい地域といえます。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- ①地域住民の方が楽しみにしておられるいきいき百歳体操や認知症サロンなどの集いの場が継続できるよう後方支援に努めています。また、各会場のお世話人と相談しながら、フレイルチェックや認知症気づき度チェックを順次進めています。
- ②チーム力の向上を目標としており、相談業務や困難事例は、一人で抱え込まず、地域包括支援センター内で情報共有を十分に行い、複数人で対応するとともに適時、ケース検討を行っています。また、個々の専門的スキルアップを図るため、外部研修に積極的に参加しています。地域の高齢者の多様な生活課題には、自治会長や民生委員と連携を図りながらその解決に向けて動いています。専門職としての研鑽のため研修への参加を促し、参加していない職員とも研修内容を共有するため伝達研修を行っています。

【令和8年度末の担当圏域の目指す姿】

- ①地域の高齢者が、3年後も住み慣れた地域で生活ができるよう、現在の状態を維持します。
- ②高齢者ができる限り住み慣れた地域で自立した生活を続けることができるよう、自治会や民生委員等と連携します。
- ③その人が困っている課題に対して、介護保険サービスだけでなく、地域の保健・福祉・医療サービスやボランティア活動、多様な社会資源を活用します。

地域包括支援センター適正運営評価 評価意見書(総評)

センター名称	姫路市朝日地域包括支援センター
実地調査日時	令和7年 11月 20日

【第三者評価で確認した主な特徴的な取り組み、好事例など工夫点】

- ・運営法人と連携のもとで、苦情に関するマニュアルや業務継続計画(BCP)を朝日地域包括支援センター独自のマニュアルが整備されています。また、それぞれの研修においても法人と協力して行われています。
- ・管轄内にある大型商業と連携して、いきいき百歳体操体験会を実施して朝日地域包括支援センターの周知に努められています。また、体験会は、お世話係り不在で行われ飲み物などの参加賞も商業施設で用意されています。
- ・災害派遣チーム(DWT)研修を受講され、地域住民への災害対策に力が注がれています。
- ・各種の通いの場において認知症気づきチェックリストを実施して、気になる方は関係する医療機関へ繋がられています。

【第三者評価で確認した主な次のステップに向けた気づきや取り組みを期待したい点】

- ・現在ICTの活用による業務改善及び業務の効率化には至っていませんが、今後はITC活用による市内地域包括支援センターと姫路市のシステムの共有に期待します。
- ・近隣の4つの地域包括支援センターとの連携が強いので、協働して多様なプログラムの開発に期待します。
- ・人生会議を実施している所と未実施のところがあるので、プラス思考の人生会議の周知と啓発に期待します。また、ヤングケアラーについても同様の状況なので啓発活動に期待します。

【市民(住民)からの意見やコメント及びその他の視点】

- ・朝日地域包括支援センターの玄関の看板、玄関の入り口、及び事務所入り口に、業務案内を大きく分かりやすく掲示されることを望みます。
- ・手続きの相談などは、事務所カウンターでも良いと思われませんが、込み入った相談の場合には相談スペースが事務所の中にあるので、入りにくく気が重たくなるように感じました。

【評価結果に対する地域包括支援センターのコメント】

今後も各種通いの場において認知症気づきチェックリストの実施やフレイルチェックを通じ地域住民の健康増進に関わっていきたいと考えます。圏域の地域包括支援センターと協働し今後も大型商業施設でのいきいき百歳体操体験会等継続し地域住民への参加促しへもつなげていきたいと思えます。

		地域包括支援センターの体制確保	
評価項目・着眼点		①	事業計画の策定 市の示すセンターの事業計画作成方針をもとに担当区域の地域特性や地域課題に応じた事業計画を作成し、進捗の管理や定期的な自己評価を行っている。
		②	職員の姿勢 センター業務は、地域の高齢者等の心身の健康の保持及び生活の安定のための必要な援助を行うことを念頭におき、常に当事者に最善の利益を図るために業務を遂行している。また、実践力を向上するために、行政やセンター連絡会が開催する研修へ参加するとともに、自己研鑽に努めている。
		③	個人情報保護 個人情報の取扱いは、個人情報保護法及び業務委託契約書に定める事項を遵守し、個人情報の収集・利用・提供は本人同意を原則として厳重に管理し、守秘義務を厳守している。
		④	広報活動 センターの業務への理解と協力を得るために、広報紙の作成やパンフレットを活用し、関係機関への配布並びに啓発を行う等、地域住民及び関係者へ積極的に広報している。
		⑤	苦情（カスタマーハラスメント含む 対応） センターに対する苦情について適切に対応し、必要時に応じて市へ報告している。
センター記入欄	取り組みの状況	①姫路市の方針をもとに朝日包括圏域での特性に応じて事業計画の作成を職員とともに作成し、定期的な評価もしている。 ②地域の高齢者のために必要な援助等支援をするために連絡会や各種研修に参加し自己研鑽に努めている。 ③法人やセンター内でも個人情報取り扱いについての研修を実施し、個人情報の取扱いは慎重に行っている。 ④センター業務への周知のため広報誌の作成を行い自治会や各関係機関への配布を行っている。 ⑤センターの苦情については今はないが必要に応じて市へ報告できるようにしている。	
	現在課題と感じていること	各職員が自己研鑽のため研修等に参加するが、時間外や休日の研修案内も多く個人任せになっている部分もある。また土曜日に出勤し研修を受ける等もあるが家庭の事情もあり平等に研修に参加できていないこともある。	
	目標達成のための今後の取り組み	事業計画の進捗状況を確認しながらセンター運営を行い常に「利用者の最善の利益」を図り自己研鑽できるよう研修等にも参加できるよう配慮していく。	
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・近年問題視されていますカスタマーハラスメント対策においては当該法人内での研修の実施やマニュアルの作成、複数人での対応の体制を取られています。また、事故・苦情・カスタマーハラスメント等の報告は当該法人のシートを使用、対応されています。 ・個人情報取り扱いにおいては、『個人情報の取り扱いに関する事務処理等における漏洩等の事案が発覚した際の講ずべき措置について』のマニュアルを包括支援センター独自で作成されており厳重に管理されています。 ・年3回発行の広報誌『あさひ通信』を介して地域の活動状況や様々な情報を提供されており各関係機関にとどまらず通いの場の参加者への配布にて広く周知に努められています。 	
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	『あさひ通信・春号』にて、職員の顔写真を掲載し読者へ顔の見える化により朝日包括支援センターの周知が図られています。また、高齢者とその家族の介護・福祉・健康・医療についての地域の相談窓口のとして周知は行われていますが、今後は、更なる周知と関係機関との連携協働による相談事案の推進とチーム力の向上に期待します。また、地域力推進のため、地域の防災・災害意識を更に発展させる取り組みに期待します。	

評価項目・着眼点		基本目標1:介護予防や生きがいづくりのために住民や多様な主体が関わって地域の資源が整備・維持・活用されている
		(基本的な考え方) 人生100年時代において、若年世代から生活習慣病とならないために健康的な暮らしを心掛け、高齢者は介護予防に努め、身近な地域活動への参加を増やし、いつまでも自分らしく、いきいきと暮らすことが大切である。「通いの場」などの地域活動の場へ通い続けることができる環境づくり、地域で役割をもって暮らすための地域づくり、地域での普及啓発の推進、ボランティア組織の育成支援を推進する。
		① 「通いの場」への継続参加がフレイル予防に効果があることを周知している。
		② 「通いの場」の継続した運営のためのボランティア活動や新たな通いの場の創設に取り組んでいる。
センター 記 入 欄		③ 「通いの場」への継続した参加が困難となる要因を分析し支援策を検討している。
		① 「通いの場」であるいきいき百歳体操の会場にて年1回フレイルチェックを実施し評価分析をフィードバックしている。
		② 新たな会場創設には至っていないが、これまで参加していなかった地域住民から参加希望の問い合わせが多い。23ヵ所会場の開催曜日や特徴一覧を作成し地域包括支援センター内で共有している。
		③ 介護予防の講座を行うなど、フレイルに陥りやすい高齢者の早期発見・予防に努めている。
センター 記 入 欄		① いきいき百歳体操のお世話係の成り手(後継)がない。
		② 新たな会場の創設が困難。適切な場所、エレベーターの有無等の設備の問題のほか、お世話係の負担の大きさから担う住民がない。
		・いきいき百歳体操会場にて、年1回のフレイルチェックを実施されたのち評価分析レーダーチャートをフィードバックし、フレイル予防の啓発と高齢者自らの気づきに努めている。 ・地域住民から通いの場への新規参加者希望の問い合わせに対し、会場の一覧表を基に対応している。また、長期欠席者の欠席理由や状況についてお世話係の方と定期的に情報共有、分析し支援策を検討されている。各会場の情報交換・横のつながり等を通じて、通いの場の支援及びフレイル予防・早期発見につながるよう取り組んでいる。
評価 調 査 者 記 入 欄		・いきいき百歳体操会場にて、年1回のフレイルチェックを実施されたのち評価分析レーダーチャートをフィードバックし、フレイル予防の啓発と高齢者自らの気づきに努めています。 ・地域住民から通いの場への新規参加者希望の問い合わせに対し、会場の一覧表を基に対応されています。また、長期欠席者の欠席理由や状況についてお世話係の方と定期的に情報共有、分析し支援策を検討されています。 ・各会場の情報交換・横のつながり等を通じて、通いの場の支援及びフレイル予防・早期発見につながるよう取り組んでいます。
		・いきいき百歳体操における世話係の後継者問題として、お世話係の負担軽減とボランティアさんの確保があります。また、地域住民へのあんしんサポーターの養成講座の参加及びあんしんサポーターの拡充とマッチングの働きかけに期待します。 ・今年度の計画に、いきいき百歳のお世話係の交流会を行い表彰式とアンケートを実施を予定されています。ぜひ実行され、お世話係の労をねぎらい定着につながることに期待します。

評価項目・着眼点	基本目標2:様々な生活上の困りごとを支え合いや助け合いで解決する仕組みをつくり活用されている	
	(基本的な考え方) 要支援の方は、身の回り動作は自立しているが、通院・買い物など生活支援サービスを必要とする人や公共交通機関が利用できなくなった人が多くなっている。民間サービス等の活用、新たな生活支援の担い手づくりなど生活支援を必要とする相談に対する対応力の強化を推進する。	
	①	介護保険制度に加え、民間サービスやボランティアの活用、民生委員・児童委員との連携等により地域の高齢者の様々な相談に対応できるようにしている。また、ヤングケアラーなどの家族介護支援について取り組んでいる。
	②	「通いの場」でのつながりから生まれる助け合いを把握するとともに、生活支援サービスの担い手について住民や関係者を交えて協議できる場(地域支えあい会議など)を設けている。
	③	地域で暮らす高齢者の様々な課題について協議している生活支援体制検討会議での検討内容を見直し、課題解決に向けて協議を行っている。
④	在宅で生活している「ひとり暮らし高齢者」の生活の質の向上を目指し、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるような支援を行っている。	
センター記入欄	取り組みの状況	①いきいき百歳体操や、宅配弁当、移動販売等のインフォーマルサービスの活用の促進を図っている。相談内容は職員間で情報共有を行い各専門職からの意見を出し合い支援している。 ②③民生委員はじめ地域住民からの相談や情報が多く、必要に応じて協議している。 ④独居高齢者、地域交流のない孤立した高齢者や身寄りのない方々も多く、相談内容も複雑化している。地域包括支援センター内だけではなく、市や関連する機関との連携を図り、課題解決へ努めている。
	現在課題と感じていること	①第10期に向けて、さらに既存のサービスではなくインフォーマルサービスの周知、利用を勧めるとともに、地域住民の意識改革も必要だと感じる。 ②通いの場での参加者の体調変化の有無に留意し支援していく。 ④独居の高齢者や困難事例も多く、今後も民生委員や地域住民の見守り協力が不可欠。円滑な関係を築いていく。住み慣れた地域で生活が継続できるようフレイル予防を啓発しているが今後も引き続き行っていく。
	目標達成のための今後の取り組み	第10期に向けて地域住民へもインフォーマルサービスの周知を図り自立支援について意識できるように啓発していきたい。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	・介護保険外サービスの啓発・活用の促進において社会資源リストの確認及び更新を随時行い地域のケアマネジャーと情報を共有しています。また、月1回4圏域合同で開催されている大型商業施設でのいきいき百歳体操体験会にて健康相談等実施されておりフレイル予防の周知、啓発に努められています。 ・地域交流のない孤立した高齢者、独居高齢者等の相談内容の複雑化により、自治会・民生委員との情報共有を行い、市・保健センター・関係機関・社会福祉協議会等と連携し支援に努めています。また、地域支えあい会議以外にも話し合いの場がもたれ支援に努められています。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	・運営法人は、兵庫県の地域サポート施設に認定されているので、地域のニーズの把握や様々な課題についての意見交換・検討・支援等の取り組みにより、運営法人を巻き込んだ更なる生活支援の体制強化に期待します。 ・事業所や施設を開放して、いきいき百歳体操の実施と体操後に多様なプログラムを提供及び県のサポート事業を使って送迎等、10期高齢者保健福祉計画に向けて多様なプログラム展開に期待します。

評価項目・着眼点	基本目標3:高齢者や家族が必要な医療・介護サービスを利用しながら望む場所で生活を継続している	
	(基本的な考え方) 要支援認定を受けた高齢者は増加傾向にあり、今後、要介護者の増加が懸念される。地域包括ケアシステムでは、中・重度者の高齢者の生活機能やニーズに対応できる多様なサービスや住まいの確保を行う。	
	①	フレイルの人の要介護への移行を遅らせるために医療・介護関係者の連携を促進するほか、一般高齢者の健康増進に向けた取組(介護予防教室、健康講座など)を推進している。
	②	人生会議(ACP)を自宅や介護施設等、地域全体で標準的な取り組みとできるように、住民向けの啓発活動を継続して実施している。
センター記入欄	取り組みの状況	①地域の人の健康増進を目的に介護予防教室や健康講座を地域の公民館やいきいき百歳体操の後、サロン等にて行っている。各会場、フレイルチェックのレーダーチャートをフィードバックし、結果を基に変化した点や予防について説明している。 ②人生会議についてはまずブロック研修にて地域のケアマネジャーに意識してもらうよう研修を行った。また地域の勉強会においても人生会議についてわかりやすく説明し周知を行った。
	現在課題と感じていること	①いきいき百歳体操の会場に赴く事が困難な住民もいるため、健康増進に向けた講座や教室が他の地域住民に浸透していない。 ②すべての地域にまわって人生会議(ACP)について話ができいないため、地域活動時に説明する必要がある。
	目標達成のための今後の取り組み	①レーダーチャートの結果を基に、特に今後も必要な会場には、運動指導士、歯科衛生士、栄養士、リハビリ専門職などの専門職派遣の活用を行うとともに、実施する会場においても地域住民が参加しやすいよう柔軟に対応し開催場所を設け、啓発活動を行っていく。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	・通いの場及び公民館における健康講座・介護予防教室では、薬局との連携により専門的な立場で健康管理のサポートを実施されています。また、大型商業施設で開催されているいきいき百歳体操体験会で、参加者のベジチェックを行い野菜摂取レベルを確認して食生活改善のきっかけを作る取り組みをされています。 ・ブロック研修・地域の勉強会において、高齢者のみならず、多様化している家族の方々にも人生会議(ACP)の情報を発信し、早い段階から幅広い層の方に考えていただけるよう周知されています。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	・レーダーチャートの結果を基に、支援に必要な各専門職の派遣を通して高齢者の自立支援の推進の取り組みに期待します。また、通いの場や地域活動が困難な住民への支援となるキーパーソンを通じ、情報共有、連携強化を図り、調整支援等の活動に期待します。

評価項目・着眼点	<p>基本目標4:介護人材を確保し、医療・介護をはじめとするサービスの提供が持続可能な状態である</p> <p>(基本的な考え方) 今後も介護サービスの利用者の増加と給付費の増大が見込まれる一方で生産年齢人口は減少し続ける見込みであり、医療・介護サービス需要を賄えるだけの担い手の確保や、介護サービスの提供が継続できるよう保険給付の適正化を図る必要がある。医療・介護関係者で急変時や入退院時の課題について協議を行い解決に向けた取り組みを推進するとともに、大規模災害時や新興感染症の拡大時において業務が継続して実施できるように支援体制の強化を図る。</p>	
	①	<p>医療・介護関係者で急変時や入退院時の課題について協議(多職種カンファレンスなど)を行い、解決に向けた取り組みを推進している。</p>
	②	<p>大規模災害時や新興感染症の拡大時においても業務を継続できるよう支援体制の強化を図っている。(BCP:業務継続計画の作成など)</p>
	③	<p>ハラスメントに関する相談窓口の設置、不当要求対策、業務管理に関する研修会の開催、業務効率の改善に資するICTの活用などによる働きやすい職場づくりを支援し、介護従事者の定着を図っている。</p>
センター記入欄	取り組みの状況	<p>①利用者の急変時や入院等において医療・介護関係者と連絡を取っている。また入院時情報提供書を早期に送付し退院時に向けた支援ができるように情報共有している。 ②BCPを作成し職員間にて共有、また災害を想定し訓練を行う等支援体制の共有等行っている。またDWT研修にも参加・登録するなど行い支援強化を図っている。 ③ハラスメント研修を地域包括支援センター内でも行い相談窓口の設置等共有を図っている。職員間で常に情報共有しチームで対応するようにし職員が疲弊することがなく働きやすい職場作りを目指している。</p>
	現在課題と感じていること	<p>①医療との連携を図るようにしているが、急な相談等があり対応が後手になることもある。(退院をしたので見に行きたくはない等) ②大規模災害時にどのように動けるのかまだ未知の状況で不安はある。地域の人に伝えているが、災害時の危機感は少ない。 ③訪問が多く単独での対応もあるため、ハラスメント被害などの可能性を踏まえて記録の取り方や録音機器の持ち出しの必要性を感じている。</p>
	目標達成のための今後の取り組み	<p>①多職種の連携を図れるよう会議や勉強会等に参加するよう調整できればと思う。 ②地域には災害についての話を伝えていきたい。 ③働きやすい職場を目指しハラスメント研修を行ったり職場内ではお互い様の思いやりを持って業務出来るよう心がけていく。</p>
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	<p>・運営法人と朝日・大津地域包括支援センター共同による業務継続計画(BCP)が作成され、職員間にて共有されています。その中で、担当利用者に対してトリアージを行い、災害時に対応できるよう名簿を管理されています。また、災害を想定した訓練等の支援、更にDWT研修に参加・登録を行い支援体制の強化を図られています。 ・地域包括支援センター内でのハラスメント研修の実施及び地域のケアマネジャーに対して行政発行のハラスメントに関する広報誌を配布し、相談窓口の設置等、対策を講じています。</p>
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	<p>・医療・介護関係者との連携の促進を図るとともに、大規模災害時を想定した地域住民の防災意識を高める防災講座等の実施、継続に期待します。 ・現在ICTの活用による業務改善及び業務の効率化には至っていません。今後はITC活用による市内地域包括支援センターと姫路市のシステムの共有に期待します。 ・地域包括支援センターの活動に即した勤務体制と働きやすい職場の環境づくりによって、職員の満足度が更に向上することに期待します。</p>

評価項目・着眼点	基本目標5: 認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って生活を継続している	
	(基本的な考え方) 認知症(若年性認知症を含む)の予防は、早期発見・早期対応が大切であるといわれており、予防に関する取組を推進する。住民一人ひとりが正しい理解に基づいて予防を含めた認知症への備えについて主体的に取り組むことが必要である。認知症は誰もがなりうるものであり、認知症の人の権利を守りながら住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる共生社会を目指す。	
	①	認知症の人への理解を促進するために認知症サポーターの養成を推進するとともに認知症サポーターが役割を持って活動できる機会を設けている。
	②	認知症の人、家族が安心して暮らすことができるように企業・団体と連携して認知症バリアフリーの推進を図っている。
	③	高齢者が社会参加を継続することで認知症の予防や早期発見につながる取り組みの充実を図るとともに、軽度認知障害(MCI)の人への支援を行っている。
	④	認知症の相談窓口として、認知症相談センターとしての機能を持つ地域包括支援センターの周知を図っている。
センター記入欄	取り組みの状況	①地域住民からの認知症相談も年々多くなり、認知症に対する理解の重要性を自治会、民生委員、地域活動、勉強会で話し、認知症サポーター養成講座の開催に繋げている。 ②金融機関、コンビニなどから認知症の方の相談があったら連携、協力してもらいながら、問題解決に繋げている。 ③また、住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるように、認知症サロンや地域の集いの場で学習会と認知症気づきをチェックを開催し、認知症の理解を深めたり、脳トレ等のレクリエーションを通して認知症予防に努めている。 ④高齢者のみではなく、より多くの方に地域包括支援センターの活動を知ってもらうために、あさひ通信を全戸回覧し啓発に努めている。 ⑤認知症サロンは一か所出来ている。毎月開催ごとに訪問し、手続等支援している。
	現在課題と感じていること	①認知症相談件数は昨年度新規相談約98件。うち警察対応案件が31件となっており増加傾向にある。独居や高齢夫婦世帯で、近隣住民の理解を得ながらの支援が必要となるケースも増加しており、警察や住民の方を交えての地域支えあい会議の開催、認知症初期集中支援が望ましいケースも出てきているのでその都度対応しているが事業に繋がりにくい。コロナ禍で地域活動や行事が激減していたが、少しずつ認知症サポーター養成講座や認知症勉強会の開催はできている。参加している方からも認知症相談や生活相談があり、その都度家族も含めた相談を実施し、早期発見、治療、適切な機関に繋がられた。 ③いきいき百歳体操、サロン、老人会で認知症(MCI)の勉強会をし、気づき度チェックリストをしてもらい早期支援に繋げることで認知症予防になることの重要性を感じている。 ⑤認知症サロンはお世話係さんや参加者も高齢化し、これからの運営について話しあっている。
	目標達成のための今後の取り組み	①認知症サロンは認知症サポーターが中心となり開催しているが、ごく一部の地域のため、地域活動(いきいき百歳体操、ふれあいサロンなど)でも活躍の場を推進ができればと考えている。 ③認知症サロンや地域活動、認知症勉強会で認知症気づき度チェックリストをし、軽度認知障害(MCI)の時の対処方法を知ってもらい認知症への移行を防ぐことが出来るように地域住民に呼びかけていく。 ⑤令和8年2月に介護者の集いを開催し、当事者、ご家族同士の交流、情報共有を図り、個々の困りごとの相談にも応じていく。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	・通いの場・認知症サロン・老人会で軽度認知障害(MCI)の講座開催及び認知症気づきチェックリストの実施による普及啓発を実施されています。また、認知症気づきチェックで20点以上の方は関係する医療機関へ繋がられています。 ・ケアマネジャー・民生委員・認知症勉強会参加者等からの情報提供や相談を通じ早期発見、治療等適切な関係機関に繋がっています。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	・高齢化しているお世話係の方の状況を鑑み、若い世代の担い手づくりもさることながら、近隣企業・事業所に向けた認知症サポーター養成講座の周知啓発を行うことで地域全体での見守りの取り組みになっていくことを期待します。また、若い世代への啓発を目指し、学校教育・福祉教育の一環にて、認知症サポーター養成講座の開催、更に多世代の支援体制の構築に期待します。